

人間科学部 社会福祉学科 (※2023年度より適用)

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー(編成方針)	
共通科目 (全学統一)	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
専攻科目	A-2	社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身に付けることで、人と社会を結びつけ、人々の生活上の問題を理解することができる。	「基本科目」や「方法・技術科目」等を中心に、社会福祉の学びの基盤となり、共通する知識と技能を修得するために、社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論をミクロのソーシャルワークからマクロのソーシャルポリシーの範囲まで総合的に学習し、人、地域、社会を関連付け、人々の生活上の問題及び社会問題を理解することができるようになるための科目を1年次より段階的に配置する。
	B-2	人間の尊厳の価値を踏まえて社会福祉の学びの対象となる人と向きあい、人と社会を支えるための思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるよう判断することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」「専門展開科目」等を中心に、社会福祉の基盤や共通した学びを踏まえ、社会福祉の対象となる児童、障害者、高齢者などの人々を理解し、その人たちが社会を支えるために必要な思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるようになるための科目を1年次から3年次を中心に配置する。
	C-2	社会的支援が必要な問題等を発見し、修得した資質・能力を主体的・創造的に活用して、多様な人々と協働しながら解決に向けて取り組むことができる。	「技術演習・実習科目」や「専門演習・卒業論文」等を中心に、社会福祉に関する諸問題を自ら発見し、実践現場に参画しながら関係するさまざまな人々と協働し、主体的に解決することができる能力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
	D-2	社会福祉の分野を中心に、学問の価値、基本原理、真理について、自律的に探求することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」等を中心に社会福祉の分野での学びや社会活動において学問の価値・原理・真理について自律的かつ持続的に探求するために必要な科目を1年次から段階的に配置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリー】

A:知識・技能

B:思考力・判断力・表現力等

C:総合的な学修経験・創造性

D:態度・志向性

カリキュラム・ポリシー(実施方針)

①社会福祉分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。

②基本科目など講義形態での講話のほか、技術演習・実習科目や専門演習科目についてはグループワークやグループ討議といった教授方法を用いる。

1. 求める学生像

社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

[知識・技能]

- ① 高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
- ② 人間とその社会の仕組みについての基礎知識を学んできた者

[思考力・判断力・表現力等の能力]

- ① 知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者
- ② 地域や社会に参画する能力を有し、倫理規範を備えた者

[目的意識・意欲]

- ① 人と環境について学ぶことに興味をもち、多様な人々の価値観を尊重し、社会支援のあり方を探求する意思を有する者
- ② 将来、社会に貢献する意欲をもち、特に社会福祉分野に自らの課題を見出そうとする者

2. 選抜方法

社会福祉学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

(2) 総合型選抜(総合型入試)

総合型入試では、高校時の諸活動を評価する活動実績型と、社会人としての活動や経験を評価する社会人対象を実施する。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書や職務経歴書等も含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、社会福祉学科として独自に、福祉科、介護福祉科等を設置する高校から福祉関係コースで学ぶ生徒の推薦を受け入れ、社会福祉学科での学びに強い関心を持ち、高校での学びを維持発展させる意欲のある者を対象とする。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜(外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。